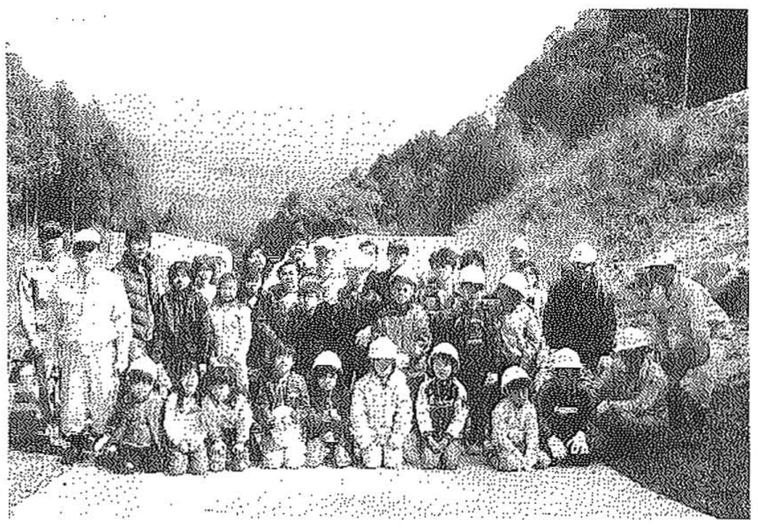
須屋川火山砂防完成記念地元交流会

児童ら貴重な体験

栗野土木等



記念植樹後、全員で記念写真に納まる関係者＝湧水町の現地で

県栗野土木事務所（前原幸夫所長）は11日、湧水町及び㈱岩澤組、県建設技術協会の共催で「須屋川火山砂防事業完成記念地元交流会」を開き、地元の上川西地区子供育成会の児童や父兄らと交流を深めた。

吉松中央公民館別館に集合した参加者約40人を前に前原所長が「工事の完成で、住民の皆さんが一段と安全・安心に暮らせるようになった様子を見てください」と挨拶した後、前原和寛技術主査が事業概要を説明。参加者は砂防啓発ビデオを視聴して、防災意識の大切さを心に刻んでいた。

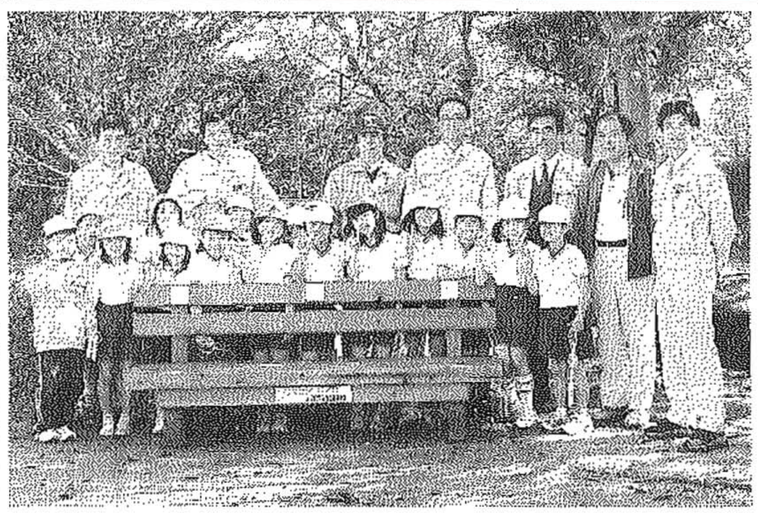
湧水町中野の堰堤建設地に移動した児童らは、真邉蔵人河川砂防課長から現場説明を受けた後、前原所長や中村重雄上川西公民館長らと、サクラとカエデの苗木20本を植樹。立岡光昭湧水町建設課長が「将来ふるさとを思うよすがとして、きょうの体験を思い出してください」と締めくくった。

参加した古川ともみさんは「普段入れないところにも来れて、貴重な体験ができました」と笑顔を見せていた。

同事業は、平成10年度から17年度の8年間に砂防堰堤2基、2号流路工L25mを建設した。流域面積は0・25㎢。保全対象は耕地10ha、人家13戸、公共施設等。総事業費は約6億円となっている。

県建築士会指宿支部青年部

母校にベンチ寄贈



設置されたベンチを前に写真に納まる関係者＝指宿市の現地で

県建築士会指宿支部青年部（上林山成宏部会長）は10日、鹿児島市の喜入町を含む指宿市郡内の小学校（約11カ所）に12脚の手作りベンチを寄贈した。

この活動は、県産材を活用し地域住民が安らぎくつろげる癒しの空間を演出することで、地域住民との交流を図り組織の活動を広く認識してもらうと同時に、会員の育成・強化及び新規会員の確保へとつなげることなどを目的に始められたもので、17年には、その功績が称えられ県林務水産部が推奨する「森林環境税公募事業（木のあふれる街づくり事業）」の対象事業として選定された。

このうち、指宿市宮ケ浜地区の指宿小学校には、上林山部会長をはじめ同部会員、親会の迫田順一支部長のほか、同校の白坂正一校長、下川床泉PTA会長らも出席して贈呈式が行われた。真新しいベンチが設置されると、校庭で遊んでいた児童らが一斉に駆け寄り、腰掛けたり手で感触を確かめる光景が見られた。

白坂校長は「母校を愛し、地域住民をはじめ児童らの将来を思いながら取り組まれる部会の方々の志に対し、改めて敬意を表したい」と、会員らへの感謝の言葉を述べた。

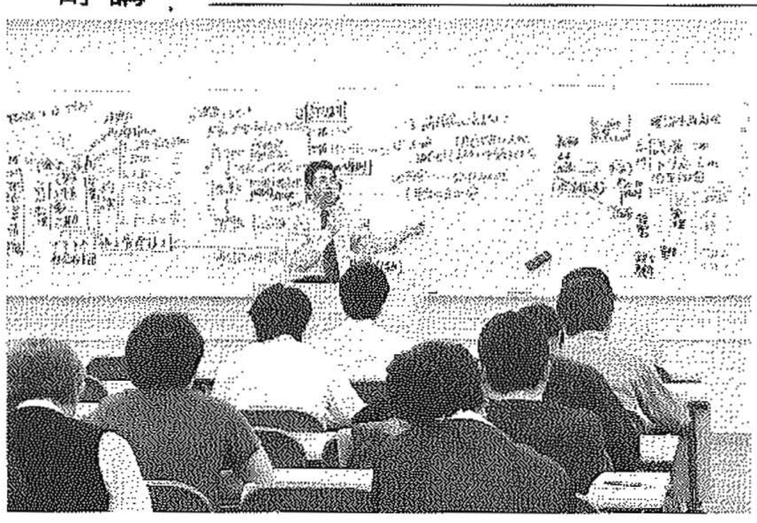
1・2級土木施工管理技士 合格対策講習

応用力試験にも対応

建設管理センター

国土交通大臣資格の土木施工管理技士など、各施工管理技士を取得するための「合格対策講座」（主催・建設管理センター九州事業部）が11日、鹿児島市の県市町村自治会館で開かれ、約50人が合格に向け熱心に受講した。

同事業部では、独自の受験対策により、出題ポイントを中心に解説。合格レベルに到達するまで繰り返し指導することを基本方針としている。また、実地試験である論文対策は、個人添削指導を行い、近年の応用力を試される試験傾向にも対応している。



約50人が受講した講座＝鹿児島市の県市町村自治会館で

今回の講座は、専任講師の奥田恵利矢氏がオリジナルテキストを用いて、第1回目の施工計画と建設業法を分かりやすく解説した。なお、18年度土木施工管理技士の願書申請に伴い今回参加できなかった受講希望者に対し、4月24日からスタートするコースを設けており、受講者の受け付けを随時行っている。開催講座は、土木・建築・電気工事・管工事・造園・建設機械の1・2級施工管理技士。この講座は、厚生労働大臣指定教育訓練講座（施設番号0100020）、キャリア形成促進助成金適用講座として、助成金の受給も可能。

問い合わせ及び申し込みは、建設管理センター（フリーダイヤル0120・14・5353）まで。

新谷政昭氏が死去

あす、告別式

長年にわたり本県建設業の発展に尽力してきた新谷政昭氏（㈱加覧組代表取締役会長）が13日死去した。73歳。通夜はきょう14日午後6時、葬儀告別式は15日午前11時30分から、いずれも川辺町のルミエール川辺斎場（☎0993・56・4444）で執り行われる。喪主は妻・トシ子さん。

同氏は、県建設業協会加世田支部副支部長や川辺ダム安全協議会長などを歴任。広い見識と豊かな人間性から、建設業界をはじめ各方面から高い評価を得てきた。特に川辺ダム整備においては、陣頭指揮を執るなど多大な貢献を果たした。

寄稿

水の不思議な力に感謝 (下)

㈱南九州プランニング 取締役会長 浜田 紘氏

清めの水

水はいろいろな汚染物質や雑菌を洗い流してくれる。手や体を洗ったり食器などを洗ったりするのも水である。水が無ければ汚れや雑菌を落とすことはできず、種々のバクテリアが繁殖し病原菌がはびこってわれわれ人間の生命維持は困難であったであろう。

多くの宗教で水による清めの儀式がある。教会で小さな皿の上の水を指で跳ね上げ、信者に振り掛ける光景を見かけるが、これも水による清めの儀式である。インドでヒンズー教の寺院を訪れたことがあるが、寺院の広場には大きなプール状の水を貯めた礼拝場があり、多くの信者の方々がここで水をかぶりながらお祈りをしている。また聖書でもキリストが川の水で体を清めたとのことで今でも信者になるために水で体を清める儀式があるとのこと、これらは儀式であるが、実際には身近な日常生活の中であるゆるものが水で洗い流されている。

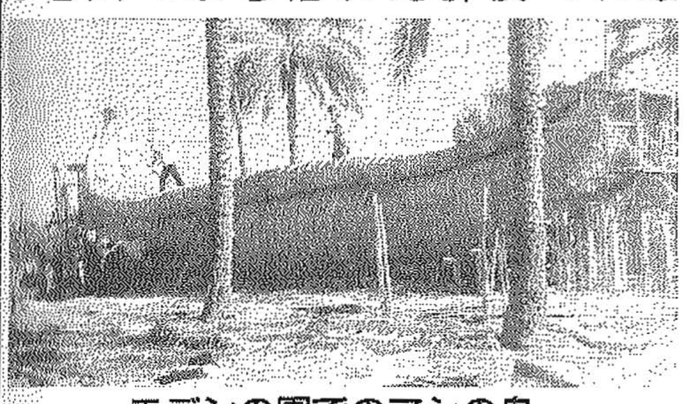
また、不思議なことに、1回使用され汚染水となった水でも植物や微生物の作用による自然の力で再生され清い水に生き返る能力を持っている。

心なごむ水

遊牧民が砂漠を旅しやっとオアシスに辿り着いたときの気持ちは経験しないと理解できないという。中近東の乾燥した土漠地帯では、工場廃水の水路であっても2～3年経つとその周囲には緑の草木が生えて、水路が一種の小川のようになりオアシスといった感じである。

殺風景な土漠地帯ではこの排水路の水でさえも心がいやされるのんびりと落ち着いた気持ちになれるのは水のおかげである。

この様な偉大で不思議な力を持つ水に感謝しつつ、水の仕事にプライドをもって取り組むと共に、水のありがたさをみなさんに知ってもらい水を大切に扱ってほしいと願っている。



エデンの園でのアシの舟・数力国の人々が製作中

環境ビジネスセミナー

リスク管理など解説

経済産業省

経済産業省主催の環境ビジネスセミナーが13日、鹿児島市のレクストン鹿児島市の県市町村自治会館で

有害化学物質など認識を深めたセミナー＝鹿児島市のレクストン

理業などから約60人が参加し有害化学物質や環境リスクの管理について認識を深めた。

冒頭、九州経済産業局資源エネルギー環境部環境対策課の古賀秀一課長が「経済産業省では、産業界、企業の力を強める取り組みを行っていく。セミナーは、環境経営のために役立てる内容となっており、各自が会社に帰ってからも他の職員への周知徹底をお挨拶。

続いて、㈱日立製作所モノづくり技術サポートセンターの吉村修主任技師が講義。有害化学物質管理についての歴史と問題点から、新制度、排出抑制対策等を解説。①守るべきことの順守②しなければならないことの実行③できることの励行により、家庭・会社・社会が発展し、持続可能な発展となる―などとまとめた。

また、日和産業㈱環境ソリューションセンターの西田眞吾シニアコンサルタントは「環境リスク管理の実務」を説明した。